

第 32 回三遠南信サミット 2025 in 東三河

第 1 分科会 報告書

1. テーマ

平常時・非常時におけるインフラの活用に向けて

2. 概要

災害時や復興時における必要な施策、三遠南信地域内の「道」や「道の駅」、「港湾」を最大限、活用するための取組について議論するとともに、平時の市町村内の主要道路の活用と、市町村内の道の駅等の既存施設を活かした三遠南信地域の周遊などの考えについて意見交換を行った。

3. 日時

令和 7 年 1 月 27 日（月） 午後 1 時 00 分から午後 2 時 30 分

4. 会場

ホテルアソシア豊橋 ザ ボールルーム C

5. 登壇者一覧

No.	所属	役職	氏名	役割
1	愛知大学 地域政策学部	教授	戸田 敏行	コーディネーター
2	国土交通省 中部地方整備局 道路部	道路情報管理官	藤山 一夫	事例紹介者
3	豊橋市	市長	長坂 尚登	発言者
4	豊川市	市長	竹本 幸夫	発言者
5	新城市	市長	下江 洋行	発言者
6	設楽町	町長	土屋 浩	発言者
7	東栄町	町長	村上 孝治	発言者
8	湖西市	市長	田内 浩之	発言者
9	喬木村	村長	市瀬 直史	発言者
10	大鹿村	村長	熊谷 英俊	発言者
11	豊橋商工会議所	会頭	神野 吾郎	発言者
12	田原市商工会	会長	高崎 雄三	発言者
13	駒ヶ根商工会議所	会頭	福澤 秀宏	発言者
14	豊橋市議会	議長	伊藤 篤哉	発言者
15	浜松市議会	議長	鳥井 徳孝	発言者
16	飯田市議会	議長	熊谷 泰人	発言者
17	NPO 法人地域づくりサポートネット	代表理事	山内 秀彦	発言者

6. 議論内容

(1) 事例紹介

ア 三遠南信地域の道路啓開計画について（国土交通省 中部地方整備局 道路部）

概要：東日本大震災の道路啓開（くしの歯作戦）や能登半島地震の際の道路の緊急復旧の経緯等について解説いただいた。

また、中部版「くしの歯作戦」の基本的な考え方等について説明いただいた。

イ 中部圏広域地方計画について（愛知大学 地域政策学部）

(2) 発言者による議論

ア 災害時や復興時における必要な施策、三遠南信地域内の「道」や「道の駅」または「港湾」などを最大限、活用するための取組について

イ 平時の市町村内の主要道路の活用と、市町村内の道の駅等の既存施設を活かした一般道を介した三遠南信地域の周遊などの考えについて

【協議における参加者からの主な意見】

三遠南信地域を走る「三遠南信自動車道」「浜松湖西豊橋道路」や3月8日に開通する「国道23号バイパス 名豊道路」等の基幹的な道路について、非常時のルート確保の重要性や建設業との連携、関係者間での情報連携の重要性について意見があった。

また、平時と非平時の複眼的な地域整備の在り方について意見があり、大規模な人員・物資が収容できる大規模施設の防災機能ネットワークについての意見や三遠南信自動車道から北上する道路整備の必要性や広域的な観光のための連携、伝統芸能などテーマ性を持った周遊についての意見があった。

三遠南信地域に計28カ所ある道の駅について、非常時の一時的な避難所や沿岸部のバックストップとしての活用の可能性、平時の情報発信拠点としての道の駅の活用と連携について意見があり、サイクルツーリズムについての意見として、サイクリストから選ばれる、安全かつ魅力的なサイクルルートの提供のための、道の駅の三遠南信のネットワークについての意見もあった。

日本の物流拠点「三河港」については、三河港が持つ水上交通の防災機能や非常時に港の緊急輸送道路となる「臨港道路 東三河臨海線」の早期実現を望む声について意見があった。

7. まとめ

南海トラフ地震という非常に甚大な災害を前に、非常時・平常時にインフラの役割を最大限発揮せねばならず、そのためには普段から情報の共有や市域イメージの共有、顔と顔をつき合わせた信頼関係の構築が重要であり、インフラの整備や維持についても地域全体で引き続き提言をしていくことが不可欠であるとする結論を得た。

8.当日の様子

◆事例紹介

(中部地方整備局 藤山道路情報管理官)



◆コーディネーター

(愛知大学 地域政策学部教授 戸田氏)



◆発言

(SENA 副会長 神野豊橋商工会議所会頭)



◆コーディネーター

(SENA 副会長 長坂豊橋市長)



◆コーディネーターによる情報提供

(愛知大学 地域政策学部教授 戸田氏)

